

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/12/1 ～2017/12/31)

【お詫び】

先月の報告書でいくつか間違いがありましたので、この場で修正するとともに謝罪いたします。
(1)勉学の状況にて、④(中略)少しでもだけ食らいついて…とありますが、④(中略)少しでも喰らいついて…が正しい表記です。

(2)デュッセルドルフ周辺の都市を紹介するコーナーで、^{エールエー}RE という列車を Rhein Express と紹介しましたが、正しくは Regional Express です。

(3)報告期間が 2017/11/1~2017/11/31 となっていますが、お気づきの通り 11/31 という日には太陽歴をはじめ、地球上のあらゆる暦には存在しません。

これらは、ろくに校閲することなく提出してしまった己の不届さから産まれたものであります。今後はこのような誤りが無いように努めて参ります。すみませんでした。

1. 勉学の状況

今回は少し変わった講義があったのを紹介しよう。それはドイツ語の授業で起こった。食材の名前についての講義をひとしきり終えたところで、先生から「せっかくだしみんなで食べ物を持ち寄ってパーティーしよう！あ、でもパーティー始める前に自分が持ってきた料理がどんな食材から出来ているか紹介してね。」と提案されたので、みんな乗り気で賛成した。そして当日、各国の郷土料理やお菓子がテーブルに並んだ。ちなみに私は、日本から持ってきた落雁を持っていき、「Das heißt Rakugan. Das ist Japanische traditional Süßigkeit, gemacht mit Reismehl und Japanish Zucker, Wasanbon.」とか言って紹介した。日本のお菓子はかなり人気なようで好評を博しており、自分としてもクラスメイトの母国の味を知れて勉強になった。

このように、授業のテーマに合わせて柔軟にアクティビティを行う部分は日本ではまず見られないので大変興味深かった。授業でパーティーとまではいなくても、実物を使って勉強するスタイルは座学とは違う刺激を得られるので、文理問わず日本でも導入していても良いのではないだろうか。

2. 生活の状況

【潜入！クリスマスマーケット】

11 月初旬あたりから、デュッセルドルフではクリスマスに向けてマーケットが開かれた。これはデュッセルドルフに限った話ではなく、ドイツ全域で言えることだと思う。そう、クリスマスはドイツ人にとって一大イベント、皆でグリューワイン(ホットワインに近いもの)を飲み、美

美味しいものを食べ、楽しい時間を共有する1ヶ月半なのだ。そんな賑わいを見て心踊らせてしまった単純な私は、各地のクリスマスマーケットに赴いたのだった…。全部を紹介しては長くなりすぎるので、今回は特に良かったと思うエッセンとニュルンベルクの二つを紹介しようと思う。

・エッセン…デュッセルドルフから^{エールエー}REで30分程度で行ける街。世界遺産であるツォルライ
ン炭鉱があり、夜に見にいくとすごくロックな感じでカッコイイのだが、それはまた別のお話で語るとしよう。駅を出てすぐにLEDライトで出来たツリーとプロジェクションマッピングで宣伝するマーケットが現れる。道なりに続くマーケットの光に誘われるようにして進むと

^{アルトシュタット}Altstadt(旧市街地)の広場に出る。この点がエッセンのクリスマスマーケットの優れた所で、メインの場所に辿り着くまでの導線の造りが上手く出来ており、気分を高めながら行ける。

^{アルトシュタット}Altstadtに着くと、露店の上にある美しい山型のイルミネーションに目を奪われる。イルミネーションを堪能したら、露店に目を向けてみよう。興を削ぐかもしれないが、どの都市のマーケットでも売っているものは大体同じである(ブルスト・アクセサリー・ツリーの飾り・革のブックカバーetc)。それ故、都市オリジナルのものが売っていると、お宝を見つけたトレジャーハンターのような気に(ほんのちょっと)なれる。エッセンではお祭りの輪投げや射的のように、ゲームのスコアでもらえる商品が変わる露店が物珍しかった。お気に入りの商品を見つけようとして歩き疲れた時は、焚き火付きの休憩場に行こう。地味ではあるがこれもまた、他の都市には無いエッセンのクリスマスマーケットの魅力である。私はこの休憩所で火にあたりながら

^{アイアープンシュ}Eierpunch(たまごリキュールを使った飲み物)を飲み、冷えた体を温めた。このようにエッセンのクリスマスマーケットは、老若男女問わず周りやすいところなのである。

・ニュルンベルク…12月後半のある木曜日、同じ寮に住む日本人の先輩から「今度の週末、暇？ニュルンベルクのクリスマスマーケットに行こう！」と誘われたので、二つ返事です承した。その時はニュルンベルクという場所がどこか知らず、(まあ直前に誘ってくるぐらいやし、そんなに遠くはないやろう)と予想していたのだが、すぐそのあと、「じゃあ、朝の6時15分に寮の玄関集合ね。」と言われ度胆を抜いた。なんとデュッセルドルフから8時間もかかる(RE2回乗り換えの場合)のだ！

当日、列車に揺られながら、なんでニュルンベルクに行こうと思ったのか聞いたところ、「ニュルンベルクといえばクリスマスマーケット、クリスマスマーケットといえばニュルンベルク」だからだそう。それが本当かどうかは現地に行ってみたら明らかであった。外国からの観光客の割合が高く、そして会場の規模がかなり大きいからだ。規模が大きいということは、それだけお店の数も多いということになり、NRW州では見かけなかったお店も結構あった。ここで食べ

たポークステーキのハンバーガーは、ドイツでは珍しく絶品の味だったので、もし行くことがあれば是非お店を見つけて食べてみてほしい。また、日頃あまりお金を使わない私でも、思わず買いたくなってしまうものがあったので、きっと行った人全員が一つは欲しいものが見つかることだろう。それほどに品揃えが多く、見て周るのに楽しいマーケットであった。

【ドイツの宅配事情】

私が日本を発つ前、ヤマト運輸が再配達締切時間を前倒し、お昼の再配達を取り止めるなどサービス縮小の兆しがあったけれども、それでも他国に比べてホスピタリティはかなり高い、とドイツに来てから実感した。では、宅配のホスピタリティが相対的に低い国ではどう行われているのか紹介しよう。

生活に慣れたとはいえ、やっぱり故郷の食べ物が恋しくなることもしばしば。そんな時は実家に差し入れをお願いして送ってもらう。今まで3回差し入れを送ってもらったが、最近の国際郵便は自分の想像以上に進歩しているようで、日本からドイツまで早ければ3・4日、かかっても7・8日で届いた。いずれの時も直接受け取ることは出来なかったのだが、残念ながらこの国で再配達をしてくれることは無い。たとえどんなに大きい荷物でも自分で配送センターまで取りに行かなければならないのだ。車がないとかなりシビアなシステムである。

しかし、ドイツの運送会社も不在のたびに持って帰るなんていう面倒なことを必ずする訳ではない。同じ建物に住んでいる他の人にも届け物があり、かつ在宅していた場合は、見ず知らずの人の荷物をその人に預けてしまうのだ。そのせいで女の子が1人、夜遅くに自分の部屋を訪ねてきてわざわざ荷物を持ってきてくれた時は、本当に申し訳なく思った。女の子にこのような大変なことをさせないためにも、せめて日本の運送業界だけでも再配達システムを残してくれることを切に願うばかりである。

【暮らすとわかる日本人とドイツ人の気質の違い】

暮らすとわかる、というのは些か誇張表現であるが、これまでの経験や現地人との話でわかった違いについてここでは記していこうと思う。

これまでレストラン・デパートなど、様々なサービス施設を利用してきたが、サービスを提供する側からアプローチをしてくることは少ない。例えば、レストランで席に着いてから少し間を置いて注文を取りに来る、なんてことは無いわけである。何かをお願いするときや頼む時は、基本的にこちらから声をかけなければならない。

日本では相手から声をかけて来ることが多いと思う。私に身近な話題だと就活がその一つだ。企業からの求人広告やインターンシップ募集の情報を見て、それから企業に応募する。しかしドイツでは自分で働きたい企業を調べて見つけ、それから「インターンさせてくれないか」とか「働かせてくれないか」と行ったアプローチを自らかけていくという手順である、とチューターから聞いた。ドイツに限った話では無いかもしれないが、自分がどうしたいのかをハッキリ示さなければ何もすることが出来ない。逆を言えば、意思表示さえすれば融通を利かせてくれることもま

まあることなのである。

日本人とドイツ人は共に真面目で勤勉な国民性である、という認識を持っている人は結構多いのではないだろうか(実際私もそうだった)。しかし、日本人とドイツ人の間で『勤勉』という概念に大きな違いがあるということがわかった。日本の『勤勉』とは、休みの日も勉強する・働くといった感覚だが、ドイツの『勤勉』はお休みの時間以外で頑張っている量が多いことを示している。日本に留学経験のあるドイツ人学生は、日本の旅行代理店に行くと海外旅行のツアーが日単位で組まれていることに驚くそうだ。ドイツでは週単位で海外旅行するそうなので、それからすると急がしい休みに見え、お休みをちゃんと取っていないように思うらしい。この目新しい『勤勉』という概念、あなたは どう受け止めるだろうか…？

次回は【小柄な自分がドイツで服屋の年末年始セールに行ってみた】、【1120 キロ移動した話】、【怪我人多数！？年越しだけのデンジャラスなイベント】について書いていこうかと思います。